

第3期 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第3期 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 令和3年9月2日（木）午後6時から7時
- 3 会場 Web会議（Zoom形式）
- 4 出席委員 石島委員、石塚委員、石橋委員（副会長）、磯崎委員、伊藤委員、井上委員、大坪委員、工藤委員、五明委員、齋藤委員、鶴岡委員（会長）、時任委員、檜垣委員、村上委員、湯原委員 以上15名
- 5 欠席委員 滑川委員 以上1名
- 6 オブザーバー 森田障害福祉課長、浦山健康課長（欠席）、中谷保険年金課長
- 7 事務局 田中介護福祉課長、原田地域ケア係長、水村主査、柴田主任、小林主任
- 8 傍聴人 1名
- 9 次第 第3期 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会

1. 開会

2. 報告

(1) 東久留米市在宅療養ガイドブックの配布状況について

(2) 東久留米市在宅療養シンポジウム

(令和3年6月25日開催) 実施報告について

(3) 各専門部会について

①医療・介護関係者の情報共有（ICT等）部会

②24時間診療体制確保部会

(4) 多職種研修会について

①東久留米市在宅療養相談窓口主催

「身寄りのない方の入院及び医療に係る法的問題」（オンライン）

②地域連携型認知症疾患医療センター前田病院主催

「事例検討会」（書面開催）

3. 議題

(1) 今年度の事業計画（案）について

①今年度の多職種研修会開催計画について

②年間計画について

4. 今後の予定について

10 配布・参考資料一覧

《配布資料》

【資料1】東久留米市在宅療養ガイドブックについて（報告1）

【資料2】東久留米市在宅療養シンポジウム（6月25日開催）アンケート集計結果（報告2）

【資料3】各専門部会について（報告3）

【資料4】第3期 東久留米市在宅医療・介護連携推進事業 実績（報告4）

【資料5】第3期第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会事前アンケート集計結果（報告1・2・3・4）について

【資料6】今年度の多職種研修開催計画について（議題1）

【資料7】令和3年度 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会スケジュール（案）

【資料8】新型コロナウイルス感染症介護事業者向けオンライン研修会案内

【資料9】在宅インテグレーター養成講座参加費助成のご案内

【資料10】ユマニチュード研修会参加費助成のご案内

【資料11】認知症フレンドリー講座

《参考資料》

【参考1】「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」病院窓口一覧の更新について

【参考2】「住み慣れた街でいつまでも【医療・介護従事者編】」

11 第3期 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催

1. 開会

2. 報告（要点のみ筆記）

（1）東久留米市在宅療養ガイドブックの配布状況について

（2）東久留米市在宅療養シンポジウム（6月25日開催）実施報告について

（3）各専門部会について

（4）多職種研修会について

【会長】前年度の事業報告について、資料1～4を事前配布して委員からのご意見を集約している。その集計結果について事務局より報告を願いたい。

【事務局】資料5より報告する。

（1）ガイドブックについては、「見やすい。」「わたしの覚え書きノートの内容が分かりやすく、各設問も記入しやすい。」「自身の両親に書かせることを勧められるノートであり、同世代の市民にもこの取り組みを広めていけることが大切である。」「イラストやデザインも温かみがあっ

て分かりやすい。」などの意見があった。地域包括支援センターからは、「渡した方からよい冊子と言われ、もっと配布してほしいという要望がある。」との意見もあった。訪問看護からは、「訪問診療や訪問看護が開始になったタイミングでの説明時に補足資料として活用できる。」との意見があった。ガイドブックについては、概ね好評な意見が多かった。また、「(40～50代に向けた)新型コロナウイルス感染症と在宅医療を組み合わせた市民向けWEB研修会などを企画・開催してガイドブックを紹介する。」という提案や、「医療従事者を対象にした新型コロナウイルスと在宅医療を組み合わせたWEB研修会を企画してはどうか。」との提案もあった。

(2) 東久留米市在宅療養シンポジウム実施報告について、「ACPを周知していくとても良い企画になっており、充実したシンポジウムだった。」という意見や、「新型コロナウイルスが落ち着いたら、映画「いのちの停車場」上映会とシンポジウムを行いたい。」との意見があった。

(3) 各専門部会について、「薬剤師のMCSの活用があまり無いようである。」「在宅医療の多職種連携において、薬局にもMCSを周知させていきたい。」との意見があった。また、「新型コロナウイルスの影響により、MCS促進が減少しているのでリモート研修での活性化を望む。」という意見もあった。

(4) 多職種研修会においては、「WEBでの研修会が必要である。」や、「コロナ禍において書面やオンラインでの開催となったが、色々な職種との顔合わせが出来るよい機会であるので、コロナ終息後は是非開催して欲しい。」との意見があった。

ご提案について、ガイドブックは次回改訂時にこれらの内容を踏まえて検討していきたい。研修会等の企画については、年間計画との兼ね合いがあるため、再度、議題でご提案いただきたい。

【会 長】報告を受けて意見がある方はお願いします。

【副会長】コロナ禍において事業を進めていくことは本当に大変なことである。昨年も含めしっかりできていることはとても良いことである。ある程度予定通りに進まないことがあっても仕方ない部分もある。コロナの影響で亡くなる方や、在宅に移行される方、在宅療養者の方が多くいる中、これからwithコロナの時代をどのように乗り切っていくか考えていかななくてはならない。

【会 長】このコロナ禍においても、皆さんのご尽力で進めてこられていることに感謝する。他に意見はあるか。

【委 員】アンケートにもある通り、ガイドブックはとても見やすく、一目でどこに何があるかが分かりやすかった。ただ、「わたしの覚え書きノート」については、ご家族と本人が揉めているケースもあり、生活の場所やお金のことで意見が食い違っていることが多々ある。その部分において、ご家族がどこまで理解できているかは疑問である。それ以外は良い企画である。

【会 長】ガイドブックは比較的良い意見が多い中で、改善点も挙げてもらえるのはありがたい。

他に意見はあるか。

【委員】ガイドブックや「覚え書きノート」は私の職場のスタッフの中でも、非常に見やすいとの意見が多かった。今後の活かしどころについて、ご家族や本人が先のことを考える機会になること自体が有意義だと考えているので、まだサービスを受給していない、60代、70代の方でも考えていける物になればとても良いと思う。

【会長】何年にも渡ってガイドブックを改訂し、だんだん良くなっていることを嬉しく思う。事前アンケートの結果を読むと、一つ一つが貴重な意見であり、色々なアイディアがあった。今後、事務局で整理してまた良い方向に進めてほしい。

3. 議題

(1) 今年度の事業計画について

【会長】今年度の事業計画（案）について事務局より説明を願いたい。

【事務局】資料7を参照。例年、表の（ア）～（ク）の事業について実施している。（ク）の事業については、令和3年度より東京都に実施主体が移ったが、近隣5市との連絡会や在宅療養相談窓口他市連絡会については継続して行っていく予定である。

（ア）地域の医療・介護の資源の把握については、第3版ガイドブック作成についてはリスト・マップ化が済んでいる。今後は配布を継続して行っていく。

（イ）課題抽出については、本日が第3期第3回協議会、次回は令和4年1月に第3期の第4回協議会を予定している。

（ウ）切れ目のない在宅医療・在宅介護の提供体制の構築推進については、24時間診療体制確保部会を11月末～12月中旬位に1回開催できればと考えている。

（エ）医療・介護関係者の情報共有の支援については、「MCSの活用」、「入院時連携情報シートの活用」、「わたしの覚え書きノートの活用」を継続していくとともに、情報共有部会の開催を年に1回、11月に開催できればと考えている。

（オ）在宅医療・介護関係者に関する相談支援については、在宅療養相談窓口を設置して継続して実施していく。

（カ）医療・介護関係者の研修については、多職種研修会を在宅療養相談窓口主催、認知症疾患医療センター主催、本協議会主催で各1回ずつ開催できればと考えている。

（キ）地域住民への普及啓発については、「ガイドブック」及び「わたしの覚え書きノート」を発行して普及啓発をしていく。

（ク）関係市町村の連携については、前述のとおり今年度より東京都に実施主体が移ったが、事業を継続させていく。

【事務局】今年度の多職種研修会開催計画については、資料6を参照。(1)認知症疾患医療センター主催の研修、(2)在宅療養相談窓口主催の研修、(3)東久留米市医師会主催の研修、(4)本協議会主催の研修を挙げている。それぞれについて、各委員の方からご説明をお願いしたい。

【委員】(1)について、まだ日にちは確定していないが、今年度は11月の木曜日、場所は市役所を予定している。時間は18:30から1時間～1時間半で、対面での開催を考えている。また詳細が決まったら連絡させていただく。

【委員】(2)について、10月に精神に課題を持つ方との関わりについての研修を考えている。オンライン形式で、80名くらいの方に参加していただけるようにする。普段関わっている介護保険対象の方だけではなく、そのご家族、キーパーソンの方が未治療・未受診で少し精神症状が気になるといったケースがあるかと思うので、そうした方々との様にしてコミュニケーションを取っていくかなど、ケースを進めるうえでの工夫などを共有したいと考えている。

【副会長】(3)について、4つほど企画がある。①新型コロナウイルス感染症介護事業者向けオンライン研修会は、昨年、介護事業者ごとに開催を企画したが、あまり申し込みが無かった。今回は同じような企画ではあるが、事業者をまとめて、講師を招いてオンラインで開催することを考えている。12月頃に新型コロナウイルスワクチンに関する講演会を企画したい。今のところ、講師は順天堂大学の伊藤先生(厚生労働省のワクチン委員会委員)をお招きしたいと考えており、ワクチンに関して最先端の話をしていただきたいと思う。②ユマニチュード研修会参加費の助成(資料10参照)を昨年に引き続き行っていく。日程表と合わせて募集をしていきたい。③在宅インテグレーター養成講座参加費助成(資料9参照)については募集の期間が短くなってしまったが、参加を希望する方がいれば交渉したいと考えている。基礎編と応用編で6日間あるので参加が難しいということもあり、もしこの費用が余るようであれば、映画「いのちの停車場」の上映会に使用できないかまた検討していただきたいと考えている。この映画上映を通して、皆さんとACPを含めた最期をどう考えるか考えられればと思っている。

【会長】事務局から補足の説明はあるか。

【事務局】医師会主催の④認知症VR研修についてもご説明をお願いしたい。

【副会長】④認知症VR研修については、「介護の日」に実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまった。状況がまだ分からないが、来年の1月辺りに様々な制限が解除されれば、時期をずらして開催したいと考えている。

【会長】その他に事務局から補足はあるか。

【事務局】時期をずらしての開催との話があったが、計画では「介護の日」のイベントとしての実施を考えており、補助金を活用した介護サービス事業者協議会支援事業であったため、例えば

介護サービス事業者協議会のいずれかの部会とコラボレーションできれば、補助金を活用した企画が行えるのではないかと事務局では考えている。委員の皆さんのご意見を伺いたい。

【委員】今ご紹介のあった企画に直接関係がないかもしれないが、新型コロナウイルスについて、介護の現場担当としてご意見を申し上げたい。ここ1～2週間で急激に在宅でのコロナ対応が増え、現場がかなり混乱している。様々な具体的問題が出てきており、医療職ではないケアマネジャー、ヘルパーなどが陽性患者と接する際に苦慮している。デイサービスを利用している方が発熱で急遽一人住まいの自宅に戻ることになった際の対応について、マニュアル等が誰からも示されておらず、その時々で場当たり的な対応を強いられている。もしその方が陽性患者であった場合、その後の対応も含めてどうするのかについて、在宅と医療の連携や手段をこの協議会にて検討することはできないかと考えている。ケアマネジャーやヘルパーが非常に怖い状況に巻き込まれて仕事をしている状況にご理解いただき、この機会にご検討してほしい。

【会長】貴重なご報告とご意見に感謝する。この大変な状況の中で何か具体的な対応策を考えていかなくてはならないという身の引き締まる思いである。他にご意見はないか。

【委員】包括にも同様の問い合わせが非常に増えている。ご家族が陽性者になり、濃厚接触者となった対象者に対し、どのように対応したらよいかケアマネジャーからも連絡が入っている。救急車を呼んでも連れて行ってもらえない状況で、どのようにPCR検査を受ければ良いかなど、ベストな対応方法について相談、検討をしているところである。ぜひこの協議会においても検討してほしい。

【副会長】PCR検査については、誰かが連れてくることは難しいと思う。そのため、唾液検査で実施し、その容器を誰かが受け渡すようにして、非接触の形で持ってきてもらえれば医療機関で対応する。検査についてはそれが一番良い方法だと考えられる。必要な場合は訪問診療医が伺うことになると思う。普段かかっている病院や訪問診療医に相談することになると思う。連れて来られる場合はそれが一番良いと思うが、現在、民間救急は中々目一杯で厳しいので、自家用車で運ぶ以外は難しい。まずは唾液検査の方法で診断をして、その診断後の医療については、たぶん来週あたりまでに確定できると思うが、東久留米方式という体制を作っている。診断をして、軽度の方には抗体カクテル療法が行える病院と話をまとめ、そちらに行っていただく様になる。経過観察ができない病院については、自宅療養者支援事業で参加している医療機関の医師6名、訪問看護ステーションの2カ所にご協力いただきながらサポートする。入院に関してもできるかどうかは分からないが、検討している。今後、調布に酸素ステーションができる。また、在宅酸素の機械についても足りないので手配する。システムとしては、在宅で医療を支える動きはしていて、来週のどこかで稼働が始まるのではないかとと思う。詳細については今後、広報等で周知されると

思われる。介護についてはこうしたシステムの中に入っていないので、そこをどのようにカバーしていくかということになる。そうした方々を支援するために、介護関係者も優先的にワクチンの接種を受けているので、ある程度、介護関係者の方々がサポートしていくことは仕方のないことだと思う。医療従事者についても、すべての医療従事者、病院に対してコロナ陽性患者に対応するように通達をして、大至急体制を整えている。もちろん感染については気を付けていただかなくてはならないが、介護従事者の方々においてもある程度はサポートをしていただきたい。それ以外の足りない部分に関しては皆様とご相談して考えていければと思う。初めから介護できないという状況にはならないように、知識の部分で協力できるところはしていきたいと考えている。

【会 長】介護施設の立場からのご意見をいただければと思う。

【委 員】施設のみならず、在宅サービスにおいても今はコロナが一番の話題になるが、自分たちで情報を収集できない高齢世帯の方や独居の方々にできるだけ我々の方からコロナに関する情報を伝えられる方法を考えながら仕事をしている。コロナだから施設入所を拒否するということは皆無に等しい状況であり、厚生労働省からもその旨の通達を受けているので、我々職員自身もコロナに対しての正しい知識を持ちながら、努力してサービスの提供を行っていくよう心掛けている。

【会 長】本日たくさんの意見をいただき検討事項も多く出てきたため、今後に向けて整理していきたい。本日は時間の都合により、次の議題に移らせていただく。

【事務局】様々な貴重なご意見をいただいたが、議題の多職種研修について決定ができていないので確認をお願いしたい。

【会 長】詳細についてはもう少し詰めていかななくてはならないが、全体としては、いただいた提案内容で決定して良いか。何かご意見があればお願いします。

【副会長】多職種研修については、各事業種に分けてお願いしたい。また、在宅インテグレートー養成講座については予算が余ると思われるので、来年に映画「いのちの停車場」の上映会とシンポジウムの開催を提案したい。

【会 長】委員の皆さんも賛成の様なのでその通り進めていきたい。その他に多職種研修についてご意見はあるか。特に意見はないようなので、先ほどの副会長の提案を事業計画案と合わせて進めていく。

【事務局】多職種研修については以上の提案のとおり進めさせていただく。続いて、次第のその他の部分において、参考資料1（「ケアマネジャーからの地域連携情報シート」病院窓口一覧表の更新について）を添付している。先日、保健所より配布があったため、ケアマネジャーの事業所

にメール等で周知させていただいたのでご活用いただきたい。参考資料2（住み慣れた街でいつまでも）については、東京都より医療・介護事業者編として、多職種連携のヒントと事例集が数冊市役所に送られてきた。東京都のホームページからもダウンロードできるのでこちらもぜひご活用いただきたい。事務局からは以上となるが、大坪委員より皆様に周知したいことがあるとのことなので、願います。

【委員】認知症疾患医療センターの受診予約について、これまで物忘れ外来受診の待機日数でご迷惑をお掛けしていたが、臨床心理士を1名増員して待機日数が短くなっているのご相談いただければと思う。基本は毎週火曜日・水曜日、第1・第4土曜日に受診の枠があるのでよろしく願います。また、認知症カフェについて、東京都の緊急事態宣言が延長されて、カフェ自体も延期となっているが、10月以降にまた状況を見ながら再開予定でいる。ホームページ等でお知らせさせていただくので、よろしく願います。

【会長】以上、その他の報告になるが、何かご意見はあるか。

【副会長】先ほどのコロナに関する情報について、自宅療養者へのパンフレットなどがあり、MCSに載せる。また、在宅支援システムについても確定次第載せたいと思う。皆様からも何か情報があれば積極的にMCSに載せて共有していただきたい。

【会長】次回は令和4年1月に開催予定となるので、また近くなったら事務局からご連絡させていただく。以上をもって、第3期第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会を終了させていただきます。